



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 uniwish6号 (2012年11月)

佐賀県佐賀市水ヶ江4丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00

E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

<http://www.saga-unicef.jp/>

2012年9月25日にFBページを開設。最新の情報はこちらへ。

<http://www.facebook.com/unicef.saga>



○ UNICEF occupied Palestinian territory/2012/El Baba
ガザ市北部郊外のサフタウィで、下水池の上に浮かぶゴミの山から、ペットボトルや金属など売れそうな物を集める子どもたち

世界の子どもたち ガザの下水池一見えざる「死の罠」

【2012年11月2日 パレスチナ自治区発】

鏡のように滑らかな水面に低く飛び回る白い鳥たち。16歳のアメッド君はその光景が大好きです。「ここには、ガザの他の場所では見られない鳥たちがいるんだ。鳥のさえずりが聞こえるし、運が良ければ一羽捕まえて家に持って帰って、鳴かせることもできるよ。ここは、僕が今まで見た中で、一番綺麗な場所なんだ」とアメッド君。

しかし、まわりのごみの山から明らかなように、この池は下水池（下水を溜めた池）なのです。 Beit ラヒヤにあるこの下水処理場は、ガザ地区北部の人口密集地から200メートルしか離れていません。周囲に漂う悪臭にもかかわらず、この地区で唯一の広場であること、様々な鳥たちが集まってくることから、子どもたちにとって、とても魅力的な遊び場になっています。

この異様な光景、一見安全そうに見える場所ですが、実はとても危険なところ。池の上に浮かぶゴミの層は鳥の重さには耐えられても、子どもたちの体重を支えることはできません。今年の2月には、鳥を追いかけていた11歳の男の子が、下水池に落ちて命を落としています。昨年12月にも、2歳と4歳の兄弟2人がガザ地区南の別の下水池で溺死しました。

2ヵ月内に3人の子どもが下水池で死亡

ガザ地区全体で、子どもたちの命を脅かす汚水槽が、53個もあると言われています。3分の1近くの世帯が下水道設備を持たないため、汚水槽が散在しているのです。2010年6月以降、水と衛生設備全体の改良・拡張のための素材や部品の輸入量は増加していますが、イスラエルの許可が下りないという理由で、小規模、中規模のプロジェクトは実施に至っていないのです。

子どもたちの命を守るため、ユニセフは水、衛生、保健 (WASH) クラスターのメンバーである人道支援機関と共に合同で対策を発表しました。日本政府の支援を受けて、ユニセフは最も危険な下水池の16の地域に住む子どもたちとその家族に対して、意識向上キャンペーンを実施しました。



○ UNICEF occupied Palestinian territory/2012/El Baba
フェンスもない下水池のすぐ隣にも人が暮らしている。ユニセフは、人道支援団体と共に、ガザ地区のこうした地域の子どもたちを守るために支援している。

危険な下水池のほとりでごみを拾う子どもたち



○ UNICEF occupied Palestinian territory /2012/EI Baba
子どもたちのために下水池の危険性について啓発する看板

ガザ地区のユニセフ関係者、および青少年センターに所属する10代のボランティアたちは、自分たちのコミュニティ内で啓発活動を行うにあたり、ワークショップに参加しました。ユニセフは、ガザ市北部郊外のサフタウィという貧困地域を含む、住宅のすぐそばに危険な下水池がある場所に警告板を立てました。

「今年6月には、親の目が離れた隙に3歳の子どもが家から外に出て、溺死しそうになったんだ」とフサン・ハッサンさんは言います。彼自身、18人の子どもを持つ父親で、彼の家も下水池からわずか20メートルのところにあります。

ハッサンさんと話している間も、子どもたちは池の反対側にある泥水近くの危険なごみの山の上を歩いています。彼の家族は、他の家との間の軒先の仮小屋に住み、売れそうな物ならなんでも拾って、生計を立てています。ハッサンさんは「この悪臭の中に暮らすのも、蚊にさされるのも大変だけれど、自分の家から数メートル先で、自分の子どもが下水池に落ちて死ぬ危険があると知りながら生活するほうがもっと難しい」と呟きました。

人道支援事業の一環として、11の下水池が柵で囲まれることになっています。サフタウィにある下水池もその1つですが、これはあくまでも一時的な解決策です。ハッサンさんは言います。「住宅地の真ん中に下水池がある状態を放置してはいけないと思う。汚水が溢れ出て、家の中まで入ってくることもある。子どもたちのために、本物の汚水処理設備を作る許可が必要だよ」

【資料 日本ユニセフ協会提供】

東日本大震災

インフルエンザ予防接種費用助成を今年も実施 子ども16万人を対象に

【2012年10月3日】



○ 日本ユニセフ協会
2011年6月、みなさまのご支援により、陸前高田市で実施された予防接種活動の様子。

インフルエンザが流行る季節になりました。

日本ユニセフ協会は、昨年に引き続き、東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島各県沿岸部の29自治体の子どもたちを対象としたインフルエンザ予防接種の支援を決定。10月以降、各地で実施されるインフルエンザ予防接種活動において、生後6ヵ月から中学生までの子ども約16万人を対象に、市町の保健当局等を通じ、接種1回あたり2,000円を助成します。助成手続きの詳細は自治体によって異なりますが、原則、インフルエンザ予防接種を申し込めば、日本ユニセフ協会からの助成金を差し引いた金額が受診者に請求される予定です。

子どもたちが元気で寒い冬を乗り越えてくれますように！

【資料 日本ユニセフ協会提供】



Tegami project 海を越えてつながった子どもたちの想い

【2012年11月7日 東京発】

「遠く離れていてもこんなに思ってくれている人がいるなんて、すごくうれしかった」
「ぼくね、外国にお手紙書くの初めてなんだ。早く届くといいな」
「自分たち（の国）もすごく大変な中、日本のために一生懸命に手紙を書いてくれてありがとうございます。今度は私たちが皆さんに元気をあげられるような手紙を送り返したいと思います。私たちはいつでもつながっています。皆さん大好きです」

これはTegami Projectを通して、世界中の子どもたちからの応援の手紙を受け取った子どもたちの声です。2011年3月、震災の日を境に昨日までとはまったく異なる環境での生活を余儀なくされた子どもたちがたくさんいました。震災直後より支援活動を始めた日本ユニセフ協会に、ある日、手紙の詰まった箱がドイツから届きました。箱いっぱい詰まった手紙一つ一つには、「離れていてもみんなのそばにいるよ」「みんなのことを思っています」とメッセージが書かれ、お花や青空、笑顔の女の子の絵が添えられていました。震災の被害を受けた子どもたちが少しでも笑顔になれるようにと、どれも想いをこめて書かれていました。

ドイツをはじめ世界中の子どもたちから次々と届いた励ましや応援、また日本の子どもたちを心配するお手紙を東北の子どもたちに届けたい。そして、東北の子どもたちから、今度は世界の子どもたちへ、お返事を届けたい。そんな想いを込めて、Tegami Projectはスタートしました。



《Tegami project 特設サイト》

http://www.unicef.or.jp/tegami_pj/
HPでは、各国から届いた手紙、東北の子どもたちのお返事も紹介しています

34の国と地域から、ユニセフの現地事務所などを通して、日本ユニセフ協会に集まった手紙は2000通を超えました。手紙を送ってくれたそれぞれの国にゆかりのある方と一緒に、33の幼稚園や学校などを訪問して行ったTegami Projectの特別授業では、どの会場も初めて聞くお話や言葉、民族衣装やダンスに歓声があがりました。各国の授業の先生として35名の方にご協力をいただき、合計で1700人を超える子どもたちに手紙を手渡すことができました。そして、手紙を受け取った全員がお返事を書きました。自分の好きなものや日本や住んでいる県のいいところを紹介したり、まだ見ぬお友だちに質問を書いたりとお返事には思い思いの文章がつづられていました。また、多くの子どもたちがたくさんのお礼の言葉を、大きな文字で書いていました。

子どもたちから預かったお返事はボランティアの方のご協力を得て、すべて英語の訳がつけられました。各国へと順次発送し、10月5日までにすべての国に送り届けることができました。今でも手紙のやり取りが続いている学校や幼稚園もあります。お互いを思う気持ちによってつながったこのたくさんの出会いがそれぞれの子どもたちの可能性を広げる一つの要素になることを願っています。

【資料 日本ユニセフ協会提供】

活動詳細

「子どもたちの3・11」ユニセフ東日本大震災報告写真展

10月11日～10月17日 佐賀市立図書館ロビーギャラリー

2011年3月11日、日本は東日本大震災という未曾有の大災害にみまわれました。その直後から日本ユニセフ協会には、国内外から被災した子どもたちのために温かい支援が寄せられました。

あの日から1年7ヶ月。日本ユニセフ協会は被災地の方々とともに、子どもたちの健康を守り、教育を再開し、心の回復を支える活動を展開しています。このたび、多くの著名な写真家の方々、国内報道各社、協力企業の皆様にご支援いただき、写真展という形でご報告する機会を得ることができました。

佐賀会場はスペースの関係で小規模展示（33点）としました。一枚一枚の写真を食べるように見られる方、大型写真の前で立ちすくみしばらく動かない方、…様々な思いで被災地の皆さまへ思いを馳せておられるようでした。



※アンケートボックスにはたくさんの感想やご意見が寄せられていました。その一部をご紹介します。

- 「水を運ぶ少年」の写真…昨年私が持っている本で出会い、心に強く残っていて、今日は「彼」を見にきました。空手でがんばって、強く生きている様子がわかり嬉しかったです。
- 忘れかけていた部分もあったので、再認識できました。復興まで時間がかかると思いますが、日本全体で取り組んでいかなければならないと思いました。
- 震災のことを忘れかけていました。震災のことを他人事のように思っていたので、今回写真を見て、考え方も変わり、自分にできることを探して自分のためだけでなく誰かのためにできることをしたいです。
- 東日本大震災が起こった時の状況がまた走馬灯の様によみがえりました。何度考えても見ても悲しくてたまりません。早く被災者の方が元気になれる事を祈ります。
- 夫婦の写真、子どもの写真、泣きながら見ました。みんなみんな、一日も早く、末永く元気でいて下さい。本当に今日来て良かった。ありがとうございます。
- 新聞やテレビが社会問題を報道するのに対し、この企画では被災者の生活をありのまま感じることができたように思う。改めて、自分が被災したらどうするか考えるきっかけになった。
- 隣の学習室で資格試験の勉強をしていて気分転換に写真を見た。勉強は大変でくじけそうになるけど写真を見て「がんばる力」をもらった。ありがとうございました。

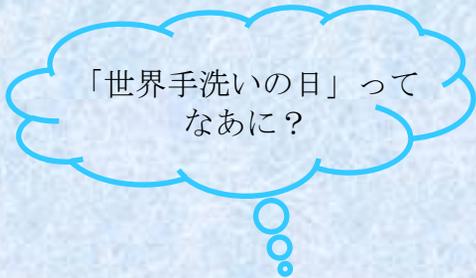


“世界手洗いの日” ルー大柴さん 高木瀬小を訪問

10月15日（月） 高木瀬小学校、佐賀新聞社

「世界手洗いの日（10月15日）」に合わせて、タレントのルー大柴さんが佐賀市の高木瀬小学校を訪れました。6年生127人は「正しい手洗い」の大切さを学んだあと、汚れの落ち具合を確認するチェッカーを使って手の汚れをチェックしました。洗い残しが多く、汚れが取れていない手に驚いた子どもたちは手洗いの6つのポイントを盛りこんだ「手洗いダンス」をルー大柴さんと一緒に楽しみ「正しい手洗いの仕方」について学びました。

ルー大柴さんはその後、佐賀県ユニセフ協会中尾会長を表敬訪問されました。



「世界手洗いの日」とは、世界の子どもたちに、正しい手洗いの方法を広めるために、ユニセフや世界銀行、水と衛生に関する関係機関や大学、企業など13の組織から成る「せっけんを使った手洗いのための官民パートナーシップ」によって定められた日です。2008年は、国連が定めた国際衛生年であり、衛生に関する啓発活動が積極的に行われました。これをきっかけとして、2008年から、毎年10月15日が「世界手洗いの日」となりました。世界各地で、せっけんを使った正しい手洗いを普及、促進するための活動が、様々な形で実施されています。

※佐賀県では2009年より佐賀県健康増進課感染症・新型インフルエンザ対策推進担当が中心となって、県内の幼稚園、保育園、学校、保健所などで広く実施されています。



ユニセフのつどい ～アフリカを知る・アフリカに学ぶ～

10月14日（日） 佐賀市立図書館多目的ホールにて

主催 : 佐賀県ユニセフ協会
共催 : JICA九州 佐賀市国際交流協会
後援 : 佐賀県 佐賀県教育委員会 佐賀市教育委員会 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞佐賀支局
西日本新聞社 佐賀新聞社 NHK佐賀放送局 STSサガテレビ 佐賀県海外協力協会

毎年恒例の「ユニセフのつどい」を開催しました。今年は120名以上の来場者で会場は大賑わいでした。中学生、高校生、大学生など若い人たちの参加が目立ちました。

第一部 「アフリカ近っとツアー」

アフリカの生活や文化をより身近に感じてもらおうと開催した「アフリカ近っとツアー」。今回はエチオピア、ブルキナファソ、タンザニア、カメルーン、マダガスカル、マラウイ、セネガルの7カ国が参加してくださいました。各国のブースにはJICA協力隊で現地を訪れた経験のあるOBらが“案内人”として待機。参加者は興味を持った国のブースに立ち寄り、その国の食事や風土、教育などの話に熱心に耳を傾けていました。

タンザニアのブースに立ちよった西九州大学の学生は魚の一種・ピラティアのうろこを使ったおしゃれなコースターに興味津々。民族衣装を着ての記念写真を撮る高校生の列もできていました。



【参加者の声】（アンケートより）

- ★協力隊に女性が多いのに驚きました。彼女たちの行動力に学びたい。（20代女性）
- ★刺繍や手工芸品などを見れてよかった。このような技術があるとは思わなかった。（50代女性）
- ★アフリカの人たちのために「行こう！」と思い、「行く！」と実行に移し、「行ってきた！」を伝える協力隊の人たちに感動した。現地では語りつくせないご苦労もあったと思う。しかし、無事に任務を終えて赴任国のことを誇らしげに語る。このような若者が日本の閉塞感を打ち破ってくれるものと期待する。（60代以上男性）
- ★タンザニアの中学生は朝農作業をしてから学校に行き、お弁当や給食はなくて3時頃まで学校で勉強する。学校へ行くのに歩いて1時間くらいかかるということを知ってお腹がすくだろうなと思った。勉強も電気ではなくろうそくをつけて勉強をしている。タンザニアの子どもはすごいと思った。（10代男性）

第二部 講演

「アフリカ取材から見えてきたこと、今伝えられること」

講師：大津司郎さん（フリージャーナリスト）



現在、アフリカに中国人は約100万人、日本人は約8000人。アフリカのイメージはどうだろう。「ライオンに食われないで」「命だけは大事に」「とにかく無事に」など言われるが、都市部は日本と変わらないショッピングセンターが立ち並ぶ。その中でテレビ、バイク、電子レンジ、洗濯機…ヒュンダイ、サムスン製品。日本も売り込むチャンスがあったに違いない。「ソニーは知ってるか?」「知ってる。でも、今は世界で韓国でしょ」…。世界が言う「日本は元気がない」「行き詰っているのでは」。こんなにビジネスのチャンスもあるのに、なんでいないのだ。

「ゴーストグローバルアフリカ」「グローバル 코리아」…、流している汗の量が全然違う。アフリカから見る中国は、ビジネスの面でも援助の面でもアグレッシブ。

大切なことは「体験」しかないと思う。それ以外に自分を向上させることはできないし、年齢でもない。本を読むことも勿論大事だが、体験がもつ力は強い。人と人との出会いの中で感じるもの—それが直感力。

「アフリカ取材から見えてきたものは“体験”をしていない、直感力のなくなってきた日本社会」だと言い、「今の日本の子どもたちに必要なのは『個』を強くする事。友達も大切だが、まずは自分ひとりで生きていく力こそが大切。みんなが右向いてるときに左向いてもいいじゃないか」と会場に力強く呼びかけました。

【参加者の声】（アンケートより）

- ★世界を知ることの大切さを学びました。日本で流れている報道だけが真実ではないなあと感じました。「体験」することが大事だと思いました。（30代女性）
- ★アフリカは意外と食料があるということにおどろきました。10代女性）
- ★誤解を消し去る力。アフリカについて誤解していたことがあった。これがとても強かった。（10代男性）
- ★韓国語しか話せない韓国人がアフリカでダイヤを掘っているということに驚いた。（10代男性）
- ★大津さんのお話には大変共感できる場所が多かったです。自分も日頃そう思っていることを代弁して下さったようで、スッキリしました。やはり、大津さんのようなパワフルさが必要だと思いました。本当に勉強になりました。（20代男性）



STAND UP TAKE ACTION in SAGA

（貧困解決のための世界的キャンペーン）

STAND UP TAKE ACTIONは、世界貧困デー前後に、貧困解決を求める意志を示すために「立ち上がり」（STAND UP）、「行動する」（TAKE ACTION）ことを呼びかけるものです。その様子を収めた写真を集めて一つの「声」をつくり、世界のリーダーたちに届けます。

「ユニセフのつどい」終了後にお残りいただいた皆さまと一緒にSTAND UP しました。

この写真も世界の貧困解決のための意志表示として実行委員会に送りました。



10月23日（火） 佐賀県庁、佐賀県自治会館
 10月24日（水） 佐賀市立赤松小学校
 白石町立白石中学校

日本ユニセフ協会は、10月23日～24日に、佐賀県にて「ユニセフ・キャラバン・キャンペーン」を開催しました。「ユニセフ・キャラバン・キャンペーン」は、1979年の国際児童年に開始し、全国の学校でユニセフ教室を開くなどして、世界の子どもたちの現状やユニセフの活動に関する理解・啓発を目的として継続しています。第1回目の佐賀県訪問は1982年。今回は8回目の訪問となりました。

10月23日（火）は、古川康知事（代行：坂井浩毅副知事）および、川崎俊広教育長とのメッセージ交換を行い、佐賀県内でのユニセフへの支援に感謝の意を表わすとともに、引き続き一層のご協力とご支援を賜りますようお願いをいたしました。同日午後には、県内の教職員、指導主事の先生方を対象とした「ユニセフ研修会」を開催しました。



坂井浩毅副知事との
メッセージ交換



川崎俊広教育長との
メッセージ交換



ユニセフ学習会の様子

10月24日（水）は、佐賀市立赤松小学校と白石町立白石中学校においてユニセフ教室を実施しました。DVD上映などによるユニセフ活動の説明の他、蚊帳やネパールの水がめなどを体験し、佐賀県ユニセフ協会の活動内容紹介も行いました。



佐賀市立赤松小学校での水がめ運び体験



白石町立白石中学校での蚊帳の紹介

かつどうほうこく

- 9月14日（金）ユニセフ出前授業 佐賀県立中原特別支援学校鳥栖田代分校中学部



「世界の子どもたちとユニセフのはたらき」

「食べ物がない人がいっぱいいるけど、その人たちのためにユニセフはどんなことをしているのですか？」「戸籍のない子どもは、どのようにして学校に行くのですか？」「世界の子どもたちがみんな学校に行けるようにするため、ユニセフはどんなことをしているのですか？」「水は重かった！水運びの大変さ、気持ちがよく分かった。」など質問や感想がたくさん出ました。

- 9月12日（水）ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
千代田西部小学校ゆめ組（1年～6年、31人）

「平和を考えよう」

- 9月19日（水）ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
千代田西部小学校ほし組（1年～6年、34人）

「平和を考えよう」



今回の出前授業は「平和の旅へ合唱団・さが」とのコラボレーションでした。合唱団のみなさんは、「地雷ではなく花をください」（絵・葉祥明、文・柳瀬房子）の大型紙芝居や平和を願う歌を素晴らしいハーモニーで歌い、子どもたちに平和の大切さを伝えました。

佐賀県ユニセフ協会は、地雷のレプリカを展示して、戦争が終わってもなお地雷の被害にあう子どもたちがいること、ユニセフは子どもたちが地雷の被害から身を守るための教育をしていることなどをお話しました。

- 10月5日（金）募金贈呈 佐賀清和中学校より（事務所にて）



佐賀清和中学校では9月4日～7日に清和祭が行われ、ユニセフ実行委員会の15人の皆様を中心となってユニセフチャリティーバザーと募金活動をしました。ユニセフ実行委員会の代表5名の方が事務所にユニセフ募金をお届けくださいました。保護者の皆様や生徒の皆様からご協力いただいたユニセフ募金は、56,405円にもなりました。募金活動にあたっては、ビデオ等で事前学習をしたりポスターを作るなどして各クラスをまわり、協力を呼びかけました。

- 10月17日（水）ユニセフ出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
神崎市神埼小学校かぜ組（1～6年、31人）

「水とトイレと子どものいのち」



学習の後、「子どもたちが泥水を飲んでいてことにびっくりした」「今日から水を大切にしようと思った」「これからもアフリカの子どもたちのために井戸をたくさん作って、子どもたちが清潔に暮らせるようにして欲しい。」などの感想が述べられました。

- 10月27日（土）トヨタ紡織九州レッドトルネード募金活動
第23回全日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場
（神崎市神埼中央公園体育館）



トヨタ紡織九州(株)ハンドボールチーム、レッドトルネードの皆様は第23回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場において試合終了後にユニセフ募金活動をしてくださいました。当日は神崎市民応援DAY、多くの市民の皆様がレッドトルネードの応援に駆け付けました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



ユニセフって なあに？



ユニセフが活動する理由 ～学校に行けない…～

今世界には、学校に行きたくても行けない子どもたちが約1億100万人います。

子どもたちが学校に行けなかったり、途中でやめてしまったりする理由はいろいろあります。たとえば…

- ・学校が遠くて通えない
- ・先生がいない
- ・教科書や学用品がたりない
- ・家の手伝いや、家計を助けるためにはたらかなくてはならず、学校に行く時間やよゆうがない
- ・女の子は、学校に行くより家の手伝いをしたり早く結婚したりすることが大切だと考えられている地域がある

もしも、学校に行けなかったらどんなことが困ってしまうでしょう…？

- ・文字を読むことができない
- ・自分の名前も書けない
- ・かんたんな計算ができない
- ・学校のともだちと遊んだり、学びあったりできない
- ・健康に生きるために必要なことがわからない
- ・将来の夢や仕事の希望をもったり、そのために必要なことが学べない
- ・自分の住む社会や世界の問題を解決する方法がわからない



© UNICEF/NYHQ2010-0562/Pirozzi

そこで、ユニセフは

- ・子どもたちの住んでいる場所の近くに学校を作る
- ・授業をするのに問題のない校舎や教室を住民に協力してもらいながら作ったり、黒板、机やイス、本だなをそろえたりする
- ・どんな授業をすれば子どもたちがわかりやすく楽しく勉強できるか、その方法を考えて先生に伝えたり、生活の役に立つことを授業で教えられるように働きかける
- ・先生のトレーニングをおこなって、先生を増やし、先生の能力を高める活動をおこなっている
- ・必要な教材や教科書などを届けている
- ・女の子も男の子と同じように、学校に通えるように、地域の人々に働きかけたり、女の子が通いやすい学校を作ったりしている

【資料 日本ユニセフ協会提供】

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください

☆公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

- | | | |
|-----------|-------------------------------|--|
| 1. 一般賛助会員 | 1口 5,000円…個人の方が対象 | } 有効期限はどちらも入会月から1年間で、退会のお申し出をいただくまで継続。 |
| 2. 学生賛助会員 | 1口 2,000円…学生の方が対象 | |
| 3. 団体賛助会員 | 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 | |
- 期間は、1年ごとの更新。



ご支援
ありがとうございます

中原特別支援学校鳥栖田代分校中学部様 トヨタ紡織九州(株)レッドトルネード様
佐賀清和中学校様 大和町花みずき通り様 ユニセフを支援する会母子草様
佐賀大学文化教育学部附属小学校5年2組様

(有)リフレイン様 佐賀銀行様 かささぎの里様 さが市民活動プラザ様 門司歯科様
道海島小学校様 山口商事様 佐賀大学医学部基礎研究棟様 本庄公民館様
うめづ歯科小児歯科医院様 ヘルスランチあららぎ様 佐賀新聞社編集局様
(株)ライフデザイン様 佐賀リハビリテーション病院様 トヨタ紡織九州株式会社様
ライオンズクラブ2R福岡合同事務局様 荒木中学校3年生様 循誘公民館様
大塚製薬株式会社佐賀工場様 日新公民館様 (2012年9月1日～11月10日)

☆ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



これからの予定 (11月15日現在)

☆11月20日 (火) ユニセフ出前授業 (諸富南小学校)

☆11月21日 (水) ユニセフ出前授業 (ドリームパーク 仁比山小学校)

☆11月25日 (日) ユニセフ出前授業 (北茂安小学校)

☆12月8日 (土) エビスFM出演 20:00～21:00 「ユニセフの活動」について

☆12月9日 (日) ユニセフ ハンド・イン・ハンド①
ゆめタウン佐賀 イオンスーパーセンター佐賀店 バニーズ三日月店
イオンモール佐賀大和 ホームワイド佐賀大和 ベスト電器佐賀大和

☆12月16日 (日) ユニセフ ハンド・イン・ハンド②
佐賀玉屋 イオン上峰ショッピングセンター

☆ユニセフ ハンド・イン・ハンド③ 鹿島会場 日時・場所は、HPでお知らせします。

※ハンド・イン・ハンド・ボランティア募集中……詳しくは同封のチラシをごらんください。

*その他のイベント等は、佐賀県ユニセフ協会HPにてご覧いただけます。



の 仲間たち!

～ユニセフを支援する会 ^{ははこぐさ} 母子草～

石田 伸弘さん (代表)、江越 浩さん



「ユニセフを支援する会 母子草」は“さまざまな困難な状況下にある母子を応援したい”と2005年9月に設立しました。書き損じはがき、使用済みインクカートリッジ、使用済み切手等の収集のお願い、回収、仕分けなどを行っています。また、佐賀大学スーパーネットと協力してペットボトルのキャップの回収にも取り組んでいます。

集まった書き損じはがきなどは募金となって（※切手1kg＝約600円）、佐賀県ユニセフ協会→日本ユニセフ協会→ユニセフ本部（ニューヨーク）を通して、世界の子どもたちへの支援に役立てられます。例えば、1枚の書き損じはがきで、1年分のビタミンAを約22人の子どもたちに届けることができます。

年末年始、ご家庭に書き損じの年賀はがきなどがありましたら、一枚でも多くご寄付いただけると幸いです。どうかご協力お願い致します。

【問い合わせ・送付先】〒840-0054 佐賀市水ヶ江4-2-2 「ユニセフを支援する会 母子草」行

ユニセフ・カードとギフト (カタログ秋・冬号) のご案内

クリスマスに…



年賀状に…



ホリデーシーズンにぴったり! クリスマスカード・ギフト。年賀状、カレンダー。プレゼントにもいかがですか?

※ユニセフ製品は定価の約50%がユニセフの活動資金として世界の子どもたちのために役立てられます。(カタログをご希望の方は事務局まで)